OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	論文著者紹介/教員紹介，投稿規定，編集後記，奥付
Author(s)	
Citation	Communication-Design. 2009, 2, p. 202-206
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21546
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

論文著者紹介

※大阪大学コミュニケーションデザイン・センターは、CSCDと略す。

渥美公秀（あつみ ともひで）
CSCD／大阪大学大学院人間科学研究科 准教授
グループ・ダイナミックスの立場から、災害ボランティア活動について、理論的、実践的に研究している。CSCDでは、1. 減災に関する研究、2. 中越地震後の災害復興についての研究、3. 四川大地震をはじめ海外の災害ボランティア活動に関する研究を行っている。

池田光穂（いけだ みつほ）
CSCD 教授
中央アメリカ地域をフィールドにする文化人類学（とくに医療人類学）が専門。最近は「現場力」に関する理論的考察や中央アメリカの先住民族の人たちの文化的アイデンティティと国民国家の関係、さらには臨床コミュニケーション技法を足もとからの国際化に関連づける手法についても手がける。

久保田テツ（くぼた てつ）
CSCD 特任講師
専門はメディア・デザイン。映像やグラフィックを中心としたビジュアル表現の研究・実践と、ドキュメンテーション手法の開発に取り組んできた。現在、学生や市民に向けた映像や現代美術の鑑賞機会と、ワークショップなどによる表現の場の創出活動に力を入れている。

小菅雅行（こすが まさゆき）
大阪大学大学院文学研究科　文化形態論専攻博士後期課程
臨床哲学、特に科学技術の専門家と非専門家との連帯を実現する可能性について、プラグマティズムを軸として研究している。現在リサーチアシスタントとして、大阪大学サイエンスショップの活動に携わっている。

志賀玲子（しが れいこ）
CSCD 特任教授
専門は現代ダンスを中心とする舞台芸術企画製作。伊丹市立アイホールプロデューサー、滋賀県立びわ湖ホール夏のフェスティバルプログラムディレクター等を歴任。05年から神経難病ALS罹患の友人支援に関わり、在宅独居生活コーディネイトと、生活空間に併設した〈スペースALS-D〉運営を含む〈ALS-Dプロジェクト〉推進中。

菅磨志保（すが ましほ）
CSCD 特任講師
専門は社会学（災害社会学、市民活動論）。災害という非日常的な問題を日常生活の文脈の中にどう埋め込んでいけるか、またそこに市民による自発的な活動がどう関われるのかに関心がある。現在、災害復興期のコミュニティビジネスに関する研究、地域防災力の向上のための訓練メニューの開発、啓発書の作成等を行っている。

関嘉寛（せき よしひろ）
CSCD／大阪大学大学院人間科学研究科　助教
ボランティアや市民活動の理論的研究と震災復興等の現場に関する研究・実践から、新しい公共性のあり方に関心をもつ。CSCDでは、1. 減災に関する研究、2. 中越地震後の災害復興についての研究、3. 災厄に関わる記憶の伝承と博物館研究、4. 地域への関心と伝達表現の研究を行っている。

高橋綾（たかはし あや）
CSCD 招へい研究員
メルロ＝ポンティの身体論を中心とした現象学の研究や、ヴィゴツキー、エンゲストロームなどの現代的学習論の研究を行う一方で、哲学的対話活動の実践（哲学カフェ、こどものための哲学）にも取り組んでいる。

中川智絵（なかがわ ちえ）
京都大学大学院生命科学研究科　博士後期課程
修士課程までは大阪大学で生物学を学んでいたが、CSCDの授業をきっかけに科学技術コミュニケーションに興味を持ち、今に至る。昨年度の参加に引き続き、今年度も大阪大学サイエンスショップで活動している。

仲谷美江（なかたに みえ）
CSCD 特任准教授
専門は認知心理学、インタフェース工学。これまで、グループウェア、福祉情報システム、思い出工学、エンターテインメントコンピューティング、安心安全インタフェース、などの研究に携わってきた。現在、科学技術問題に関する市民と専門家のコミュニケーションの在り方について模索中。

西川勝（にしかわ まさる）
CSCD 特任准教授
精神科看護、血液透析看護、高齢者介護の現場を20数年にわたり遍歴。臨床哲学に関わる研究と実践にも従事。考え悩むナースとしての経験から、認知症ケアの再構築を試みている。高齢者介護の専門領域を越えて、ふつうの子どもたちと共に「老い」について考える実験に心ときめかせている。

西村ユミ（にしむら ゆみ）
CSCD 准教授
専門は看護学。急性期医療現場の看護ケアや遺伝カウンセリングの実態、及び患者や犯罪被害者家族の経験の記述に取り組む。また、現象学的研究方法に関する研究会などを開催。CSCDでは、身体論（現象学）や実践知、現場力をキーワードとして、対人コミュニケーションの教育・実践的研究に携わる。

平井啓（ひらい けい）
CSCD ／大阪大学大学院人間科学研究科／大阪大学大学院医学系研究科　助教
専門は、サイコオンコロジー、医療心理学、健康心理学、行動医学、緩和医療学。主にがん医療の現場における心理的問題の解明、心理的援助方法の開発について研究と実践活動を行っている。現在、現場の臨床家と大学の研究者を結んだ協働的研究チームの構築に取り組んでいる。

平川秀幸（ひらかわ ひでゆき）
CSCD　准教授
専門は科学技術社会論。「科学技術ガバナンス」をテーマに、食品安全問題を中心として、科学技術が関連する公共政策の決定過程における科学知の利用や、科学技術の社会的影響評価のあり方、専門家と政策決定者、市民の間のコミュニケーションや市民参加の問題について研究している。CSCDではサイエンスショップを運営。

本間直樹（ほんま なおき）
CSCD ／大阪大学大学院文学研究科 准教授
コミュニケーション論を軸に、臨床哲学では、哲学的対話の方法論と実践、「こどもの哲学」、身体・セクシュアリティ論などに取り組む。CSCDではワークショップ記録を含めた映像コミュニケーションの実践的研究にも挑戦。

松本篤（まつもと あつし）
remo［NPO法人記録と表現とメディアのための組織］／大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程
大学在学中より、市民参加型の芸術事業のマネジメントに従事（2003 ～ 2008）。現在、NPO法人remoにて、個人によって記録された映像物のデジタルアーカイブ事業、AHA!［Archive for Human Activities/人類の営みのためのアーカイブ］を運営。http://www.remo.or.jp/

宮本博史（みやもと ひろし）
NPO大阪アーツアポリア
1978年 大阪生まれ。大阪在住。「さまざまな人や物の 記憶や存在・価値観との、関係について」作品を制作。映像作品や音作品・インスタレーション・パフォーマンス・web・プロジェクト型の作品など、ジャンルにとらわれない 表現を模索している。AHA!［Archive for Human Activities/人類の営みのためのアーカイブ］メンバー。

森栗茂一（もりくり しげかず）
CSCD　教授
都市民俗学、盛り場の研究から、震災復興まちづくりでのコミュニティづくり。コミュニティを作ろうと思っても、クルマに頼るとコミュニケーションができない。こうして、交通まちコミュニケーションの研究となる。地域交通活性化再生法に関わる講演で、全国行脚。芸は一流、知識は二流、ギャラは三流。交通計画界の寅さん?

森有紀子（もり ゆきこ）
消費生活アドバイザー
メーカーの技術開発職を退職後、建築士グループのNPOでシックハウス問題に携わる。専攻は高分子化学。共著書に『建築に使われる化学物質事典』（風土社 2006）“生活者にとっての化学” について、市民の立場で考えたいと思っている。

八木絵香（やぎ えこう）
CSCD　特任講師
専門は、科学技術社会論、原子力社会工学、災害心理学。原子力立地地域を中心に、市民と専門家が対話する場の企画・運営をしてきた。現在は、科学技術コミュニケーション能力向上のための教育プログラム開発と同時に、市民参加型で科学技術の諸問題を解決するための枠組みについて研究している。

山崎吾郎（やまざき ごろう）
日本学術振興会特別研究員（PD）
人間の身体を医学的・社会的に利用するさいに生じる問題を、人類学の立場から研究している。これまで、日本の臓器移植医療を中心にとりあげてきた。最近は、臓器のやり取りを広い意味での「経済」としてとらえることで、この医療（とそれにまつわる問題）を別の切り口からえがいてみたいと考えている。2008年より、フランス国立社会科学高等研究院（EHESS）にて在外研究中。

山内保典（やまのうち やすのり）
CSCD　特任研究員
専門は認知心理学、教育心理学。現場における科学者の思考プロセスや協働に迫る中で、科学技術社会論とも出会う。現在は、科学者と市民の協働の場であるサイエンスショップの実践・研究に従事。学生スタッフが知的好奇心を発揮する中で、リサーチリテラシーを向上できる教育プログラム実現を目指している。DeCoCiS BAND Vo &G。

投稿規定

1. 投稿者の資格

投稿者（筆頭著者）は原則としてコミュニケーションデザイン・センター教員に限る。ただし、Communication-Design編集担当（以下、編集担当）が承認または原稿執筆を依頼したもの（寄稿論文）についてはこの限りではない。

2. 投稿原稿の内容・種類・頁数

2.1 内容

投稿原稿の内容は自由だが、広義のコミュニケーションデザインの概念、実践・教育方法の開発に寄与するものを対象とする。原稿の種類は、論文、実践報告、研究ノートとする。

2.2 種類

2.2.1 論文

学術的な論文

• 原著論文（Original Paper）

当該分野における新しい研究・開発の成果の記述で、研究の対象、方法、あるいは結果に独創性、創造性があり、かつ明確で価値のある結果や事実を含む。

• 総説論文（Review Paper）

対象とする分野における研究の、歴史的背景、重要性、進捗状況、今後の発展の方向などを踏まえつつ、著者の学術的、技術的な研究、あるいは開発成果を総合的にまとめたもの。

2.2.2 実践報告

社学連携の報告など

例：技術報告（Technical Report）：設備・装置・ソフトウエアなどの設計・政策・試験・運用・評価などの新しい経験やその結果の報告で、実用的価値のあるもの。

2.2.3 研究ノート

上記1、2のカテゴリに当てはまらない原稿（下記の例示を参照）

• 短報（速報）：今後論文にまとめる予定の試論、又は速報的なもの。
• 提言：社会に対して提言を行うもの。
• 資料：論文のスタイルに収まりにくいもの。委員会・研究会が集約した意見・報告書など。
• 編集者への手紙（letter to editor）：論文に対する意見、編集に対する意見など。
• 話題：最近注目されている事柄等に対する話題、意見など（比較的短い文章）。
• 書評：書物に対する評。
• エッセイ
• その他

3. 投稿原稿の作成及び提出

3.1 原稿の様式

別紙執筆要綱[※1]に従うこと。

※1　執筆要綱及びその他の書類は下記URLを参照のこと。

http://cscd.osaka-u.ac.jp/data/orangebook/

3.2 受理日

投稿原稿が編集担当に到着した日付をもって原稿の受理日とする。

3.3 内容

投稿原稿の内容は、原則として他の書籍・雑誌において未発表でかつ査読中でないものとする。

4. 査読手続き

4.1　査読の対象となる原稿

論文および実践報告とする。研究ノートについては、論文や実践報告に準ずる短報、提言、資料等を原則として対象とするが、その判断は編集担当に一任することとする。

4.2　査読者の選出等

投稿された原稿について、編集担当が2名の査読者を選出し、別紙の査読要領にしたがって査読を行う。

4.3　投稿原稿の採否

査読の結果に基づいて編集担当が決定し、投稿者に通知する。

4.4　原稿の修正

査読照会事項について原稿の修正を行う場合は、旧原稿と査読所見に対する回答書を添えて、編集担当が指定した期間内に書類一式を再提出する。

5. 著者校正

著者校正は1回とし、再校以降は編集担当が担当する。

6. 著作権

本誌に掲載された論文等の内容については、投稿者に著作権があるものとする。また本誌は、電子論文集としても発行し[※2]、原稿はWebサイトにPDFファイルで掲載するが、掲載の可否については投稿者の承諾を得ることとする。

また投稿において著作権者の存在する写真、図版、資料を引用する場合には、投稿者が責任をもって許可を得ておくこと。

※2　ただし、1号（2007年度号）以降については、大阪大学出版会と協議の上決定する。

7. 別刷り

別刷りは印刷しないが、投稿者へは版下データ（PDF形式）で掲載原稿を提供する。

8. 投稿期限及び投稿先

原稿の投稿申し込みは、氏名、投稿原稿タイトル（仮題）を記し、7月22日17時までに編集担当にメールで送付する。編集担当アドレスは、以下の通りである。

cscd-hensyu@cscd.osaka-u.ac.jp

原稿の投稿期限は10月1日17時とする。封筒に「投稿原稿在中」と朱記し、コミュニケーションデザイン・センター事務局庶務担当に提出する。

付則

この規定の改正は、2008年5月から施行する。

編集後記

本書特集では、当初、CSCDのミッションの一つ「社学連携」活動が取り上げられる予定であったが、CSCD教員の声を聴きながら編集作業を進めてみると、どうも「社会連携」や「社学連携」という用語がしっくりこない。活動を大きく分類するものではあっても、何かを生み出す言葉ではないのだ。結局、今日手垢のついた言葉ともいえる「協働」という言葉にあらため向き合うことになった。学ぶことの多い作業だった。本

毎回この本は、一つのかたちを作り出すために様々な人が関わり、部分を生み出し、その群として全体がかたち作られます。デザイナーとしてこの本の具体的なカタチを作っていますが、初めから最終的なカタチを描き、それに向かって計画的に進んでいくような理想的な進め方にはならないのが実際です。

今回の特集でとりあげた「協働」の実際もそうなのかもしれません。協働のさきにあるものを、誰かが初めからかたち作ることはできるのか――。

デザインという専門をもちつつ、専門ををはずれた部分の“私”が出来事にどう関わるのかを今回の特集を通して考えさせられました。この本を通じてそれぞれの読者の中に新しい発見があることを願っています。清

前号のオレンジブックは、CSCDのメンバーが複数人集まって実践したプロジェクトに関する報告が多かった。本号は、各人の独創的な活動に関する論文や報告が目立つ。CSCDも開設から4年目を迎え、皆の研究や実践が初期の活動を足場として、広く社会に広がっていったことの証かもしれない。その分、それらを論じた文章を確認したり、編集する作業には時間と多くの労力をかけてきた。その成果を楽しんで頂けることを願っている。また、本号を作成した2名のメンバーがCSCDを旅立つことになった。この動きも、私たちの活動の成果と考えて送り出したいと思う。お疲れ様でした。西

オレンジブックプロジェクト。CSCDの可視化のひとつとして、それはある。このプロジェクトでのさまざまなミッションは、私にとって、CSCDのさまざまな「かたち」を発見する、新しい対話のあり方の思索交流であった。このたび、この号をもって、その斬新な営みに後ろ髪を魅かれながら、CSCDから飛び立つことになった。対話とは知覚であり、一方の視点だけではない、今、ここで、他者を通じた自己を超えていくことで、その「関係性」は拓かれる。西村編集担当長をはじめ皆様に、心から深謝し、お別れの言葉とする。中

オレンジブックの作業は大変だといわれていましたが、実際、作業がはじまると、（下作業などはほかの方が負担してくださっていたので）思っていたほど大変ではなく、メンバーと「あ〜でもない、こ〜でもない」と話をするのは、大変興味深いものでした。メンバーのバックグラウンドや考え方の違いなどが作業の中で明らかになり、その違いをお互いで共有することが少し出来たせいかもしれません。そして、この議論のプロセスがコミュニケーションデザイン（CD）の一つだと、最後になって気づかされました。楽しく（?）作業をさせてくださったメンバーのみなさんにお礼を申し上げるとともに、オレンジブックがCDの研究の場としてますます魅力的になることを願っています。園

今年も西村編集担当長の指揮のもと、山あり谷あり繰り返しながら出版にこぎつけましたオレンジブック。やはり難しくかつ充実していたのは、今年も査読の作業でした。著者それぞれの異なる専門的背景や文体。その持ち味や論文あるいは文章としてのクォリティを大事にしつつ、他分野・専門外の人にもわかるようにすることは、著者と査読者の方々、編集担当者の苦しくも楽しい創造的なぶつかりあいでした。2009年はいよいよCSCDも設立から5年目に突入し、オレンジブックもこれまでとは違った表現を試みる予定です。みなさま、乞うご期待。平

Communication-Design 2

異なる分野・文化・フィールド ── 人と人のつながりをデザインする

企画　大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

編集・制作　西村ユミ
平川秀幸
本間直樹（第1部 編集・制作）
中西淑美
関嘉寛
清水良介（第1部 編集・制作）

編集協力　甲斐賢治
高橋綾

デザイン　清水良介

2009年3月31日　初版第1刷発行　［検印廃止］

発行所　大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）
〒560-0043　大阪府豊中市待兼山町1-16
Tel. 06-6850-6111　Fax. 06-4865-0121
http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/

大阪大学出版会
〒565-0871　大阪府吹田市山田丘2-7　大阪大学ウエストフロント
代表者　鷲田清一
Tel.・Fax. 06-6877-1614（代表）
http://www.osaka-up.or.jp/

印刷所　岡村印刷工業株式会社

©Center for the Study of Communication-Design and Authors. All Rights Reserved.
2009　Printed in Japan
本書における全ての著作権は、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターとその著者に帰属します。
無断転載を禁ず。

Ⓡ〈日本複写権センター委託出版物〉
本書を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。
本書をコピーされる場合は、事前に日本複写権センター（JRRC）の許諾を受けてください。
JRRC ［http://www.jrrc.or.jp　eメール：info@jrrc.or.jp　電話：03-3401-2382］

ISBN 978-4-87259-299-3
ISSN 1881-8234